

J A 自己改革推進レポートについて

令和6年9月25日
J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A 鳥取中央の取り組み

①熱中症や農作業事故発生防止に向け啓発強化へ

J A 鳥取中央や県中部地域の市町などで構成する鳥取県中部地域農作業安全・農機具盗難防止協議会は7月10日、倉吉市で総会を開催した。

令和5年度は、県内で農作業事故が2件発生し、うち1件は死亡事故となった。その防止対策として、令和5年度は各市町と協力し、のぼり旗の設置や広報誌での呼び掛け、防災無線などの注意喚起を実施、6月と8月には農作業死亡事故警報を発令した。

令和6年度は、対話型研修やマスメディアを活用した啓発を強化し、発生防止に努めることを承認。令和5年度に引き続き、農作業に出かける前には、①どこに行くのか②何時に帰宅するのか③携帯電話は持ったのか、3点について身近な人の声掛けを普及させることも確認した。また、熱中症予防として、ワークマンが新発売した「暑熱バンド」を紹介し、手首に巻いて熱中症リスクを知らせてくれる商品があることを情報共有した。

同J Aの戸田常務は「1人の後継者を作るには膨大な労力と時間が必要だが、事故で命を落とすのは一瞬。若い人、年配の方皆に注意喚起していこう」と呼び掛けた。



②荒れる農地を何とかしたい！焼酎で農地再生へ

J A 鳥取中央青壮年部は、再生した農地で育てたサツマイモの焼酎を完成させた。その名も「笑chu!」。みんなが笑顔になれるようにと名付けた。

管内の各支部の共通課題が荒廃農地の活用だったことから、省力的に栽培できるサツマイモに注目し、これを使った焼酎づくりを目標に取り組みを始めた。各支部員が手分けして荒廃農地の地権者の説得に歩き、令和5年度は、5か所約1haでサツマイモ「べにはるか」を植え付け。再生したばかりの農地は草勢が強く、雑草に負けないように部員らが持ち回りで草刈りを実施した。獣害にも悩まされたが、収穫できたサツマイモ200kgを地元の梅津酒造に持ち込み、焼酎を製造した。梅津酒造の梅津部長は「甘みのある芋焼酎に仕上がった」と話した。同商品は、8月1日から1本(720ml)2000円程度で同J Aの直売所などで販売している。



再生した農地では、保育園児とのサツマイモの栽培体験や収穫物の学校給食への提供を予定する他、特産スイカを活用した新規就農者の受入など、各支部で活動が広がり、地域活性化が期待される。

以上